

会議名	第14回 まちづくりの勉強会
日時	令和元年10月28日 午後7時30分～午後9時12分
内容	<p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市民 12名 事務局 5名 計17名 (10代:0名 20代:1名 30代:1名 40代:8名 50代:4名 60代:3名 70代:0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(5分) 進行:事務局 ② 飛騨高山文化芸術祭「こだま〜れ」市民応援プロジェクトについて紹介(5分) 発言者:岐阜県建築士会飛騨支部 支部長 ③ グループ討議(70分) 30年後の高山市の姿についての最悪の仮説を克服するため、高山市はまず何をすべきかということ をテーマに、前回の内容を具体的な提案として深く掘り下げるよう各グループで討議 ④ グループ別発表(13分) ⑤ 意見交換(7分) ⑥ おわりに(2分)</p> <p>[グループ別発表] 【グループA】市街地 <u>最悪の仮説</u> 昔は「飛騨高山」として名を馳せていたが、古い町並は観光客の姿もまばらで、商店街はシャッター街となっている。 → 高山の暮らしをリスペクトし、高山らしさを守っていくために、「高山ゼミ」を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高山ゼミ」とは、地元の人がゆるく集まって、楽しむこと。 コンセプト:昭和30年代から脈々と受け継がれてきた高山の暮らしを残していくためにはどうしたら良いか。 <p><u>今さら聞けないこと</u> (例)雪下ろしのコツ、赤かぶの漬け方、干し柿の作り方、朴葉ずしの作り方、なつめの煮方、ころ芋の煮方、げんこつ飴の作り方、めでたの意味・歌い方、古民家の知恵</p> <p><u>地元の人でも知らないこと</u> (例)味噌づくり、山菜・きのこの種類と美味しい食べ方、魚のさばき方、ジビエ料理、燻製づくり、庭木の剪定、川床飾りのやり方、里山散策</p> <p><u>その他(もっと知りたい!)</u> (例)自分で着物を着る、袴を着る、高山祭の解説、雪吊りの方法、薪の積み方、高山ラーメン食べ比べ</p> <p>【グループB】集落 <u>最悪の仮説</u> 郊外の集落では住む人がほとんどいなくなり、空き家ばかりとなって田畑や山林は荒れ放題。 → 「食の安全、農業の安全」を宣言し、子どもたちを安心して育てられる地域にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域の安心、安全。水、食料、空気の綺麗さを保っていく。</u> 遺伝子組み換えの種子、農薬、水や森林管理の民営化を高山はできるだけ排除しよう。 特区を利用して、一般の人が農地を買えるような体制にする。 <p style="text-align: center;">↓</p>

空き家と農地をセットにした自給自足ができる施設を売り出していけば、無農薬、低農薬の地域が広がっていく。



健康志向食品のニーズが高いため、無農薬、低農薬の農業は高山で基幹産業になる！

- ・まちづくり協議会と連携して、地域住民といろいろな議論をし、行政にも反映できるようなシステムができれば、持続可能な地域になるのではないかな。

[全体ディスカッションでの主な意見]

- ・高山ゼミは、まちづくり協議会の活動に活かしていけそうである。お得感、お値打ち感をプラスすれば、もっと盛り上がると思う。
- ・今の高山を持続可能に、衰退せずにしていくために、自然を守っていくことは大切だと思う。
- ・地元の方は閉鎖的な部分があるので、地元住民と移住者との関係性を築けると良いと思う。

[アンケートより抜粋]

- ・技術革新と文化・伝統の矛盾をどう克服していくかが課題だと思う。
- ・もともと高山に住んでいる方、高山に移住された方で、似たような案でも考え方が異なり、いろいろ気付かされました。

[まとめ・次回について]

- ・次回でひとつの区切りとし、まとめとする。
- ・第15回は、令和元年11月27日(水) 19:30~21:30 市役所にて。